

番組「私の呼吸器を外してください」を見て

尊厳死問題を取り上げた番組「私の呼吸器を外してください～『生と死』をめぐる議論～」を見た。

運動神経が侵され全身の筋肉が次第に動かなくなる難病の ALS（筋萎縮性側索硬化症）を 49 才の時に発病し、「体が不自由でも心は自由」と、ALS への理解と支援を訴えて講演、著書活動をしてきた男性が、20 年間の闘病の心の葛藤の末「自ら死を選びたい（栄光ある撤退）」と、「何ら意思表示が出来なくなったら人工呼吸器を外して欲しい」と治療の病院へ要望書を提出した。

男性は今は人工呼吸器を装着し、かすかに動かせるほどの筋肉の動きを捉えるセンサー付き PC で意思を辛うじて伝えているが、思考が出来るだけに、ほぼ筋力も衰え、目を開けるまぶたの筋力も衰えると暗闇に閉じこめられる不安、恐怖心から、1 年かけて A4 判 9 枚から成る要望書を書き上げた。

妻、3 人の子どもたち家族は話し合いを重ねて、本人の意思を尊重して要望書に署名した。

要望を受けた病院内の倫理委員会は 1 年の議論を重ね、「本人の意思に逆らうことこそ、反倫理でないか」との結論に達したが、病院長は、医師が人工呼吸器を外すことは現時点では自殺ほう助罪等に問われかねないことから結論を承認できないと語り、社会の尊厳死の指針の必要性を問いかけている。

医学・医療の飛躍的な進歩で「生物学的な命」の延命はかなり可能になっただけに、「個別性のある精神性を持った命」の終焉についての論議の必要性を番組は提起していた。

これからの現代社会の医療現場では、生物学的な命の延命の過程で、医師や家族であろうが第三者が云々する問題でないだけに、我々自身が「個別性のある精神性を持った命」の自らの終焉をどう選択するかが問われるということのようである。

生死は表裏一体だけに、まずは自らの「個別性のある精神性を持った命」の生き方が問われているとも云えそう。

尊厳死の問題について、ご意見をお聞かせいただければ幸いです。

追伸：

- ・「尊厳死」：生命を維持するための様々な治療を中止し、患者が尊厳をもって死を迎えることができるようにすること。
- ・「日米の尊厳死の三要因」：HP「雑学 BN」の覚え書関係（I）、2005. 3.28；参照。